

「践」の演題名で格調高いご講演を賜りました。

シンポジウム(計一二演題)では①「高血圧のトランスレーショナル研究」②「ゲノム・疾患遺伝子研究から考える高血圧関連疾患の成因」③「モデル動物からみた高血圧関連疾患とその病態」をテーマとして、各分野の最先端の研究内容が発表されました。

セミナーでは①伊藤 裕先生(慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科)②上野高史先生(久留米大学病院)③檜垣實男先生(医療法人仁友会南松山病院)④柴田 茂先生(帝京大学医学部内科学講座)の四名の先生にご講演いただきました。

また日本高血圧学会との合同企画として教育講演を蘇原映誠先生(東京医科大学腎臓内科学)に「WNKシグナルが明らかにした塩分感受性高血圧のメカニズム」としてご講演頂きました。さらには、公益財団法人健康加齢医学振興財団との合同企画として、岡本国際賞受賞記念講演「免疫の老化と老化の免疫」を湊 長博先生(京大大学院理事・副学長)に賜り、座長の労を熊本大学理事・副学長 竹屋元裕先生にお務め頂きました。一般演題として口頭発表一〇題、ポスター四三題と多くの発表が行われました。

以上のように、本学会のテーマの通り、復興中の熊本の地で高血圧研究の復興を考える大変有意義な会を開催させて頂きました。これもご参加・ご協力頂きました

た皆様、そして肥後医育振興会様のご支援の賜であり、この場をお借りして心より御礼申し上げます。今後とも指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 第二回熊本大学・KAIST ジョイントシンポジウム報告

熊本大学国際先端医学研究機構長

須田 年生

平成三十一年一月二十五日に熊本市医師会館において「第二回熊本大学・KAIST ジョイントシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは平成三十年十月二十二日に韓国大田広域市のKAIST(韓国科学技術院)で開催された「第一回熊本大学・KAIST ジョイントシンポジウム」に続き、熊本大学とKAISTが合同で企画したものです。また、「第四回IRCMS(熊本大学国際先端医学研究機構)IROAST(熊本大学国際先端科学技術研究機構)ジョイントセミナー」としても開催されました。

幹細胞機能の特性を生かした再生医療分野では、造血幹細胞が、再生医療分野を先導していますが、未だに幹細胞の自己複製の本体や分化の分子基盤については十分にわかっていません。特に近年進んでいる、幹細胞を取り巻く環境細胞(血管などのニッチ細胞)に注目したニッチ研究には臓器内を可視化する技術の発展が必要であるため、本シンポジウムでは、血管生物学からの最新知見、最

先端の臓器可視化技術及び得られるビッグデータの新たな解析手法を用いて、幹細胞及びニッチ細胞・ニッチ分子を理解、さらにそれらの機能変容に起因したがん化のメカニズムを探ることを目的としました。

研究連携を行うKAISTは、血管生物学や腫瘍学の研究者を集め、組織深部の生命現象観察を可能にする生体顕微鏡の開発及びビッグデータの解析技術の開発を進めており、幹細胞及びがん研究に応用することで、研究を加速する相乗効果が期待されるとともに、日韓間の研究ネットワーク強化が期待されます。



当日は、原田信志熊本大学長の開会挨拶で始まり、熊本大学から一〇名及びKAISTから五名の研究者が、四つのセッション(「Genetic and epigenetic mechanisms in disease」、「Metabolism and cancers」、「Stem cell and cardiovascular biology」、「Cutting-edge technology」)において、それぞれ最先端の研究成果を発表し、八〇名近い参加者による活発な意見交換が行われました。最後はYong-Mahn Han KAIST学部長が閉会挨拶をしました。

次回第三回シンポジウムは令和元年十一月に韓国大田広域市で開催予定です。

